

会報 長事研

長与町立長与小学校内
発行責任者 上戸 健
2016(H28)年3月22日発行

全事研セミナー・評議員会開催

2月10日、東京都北区北とぴあさくらホールで全事研セミナーが、全国から1100余名の事務職員が参加し開催されました。当日は大変穏やかな日和に恵まれ、会場は全国から集まった参加者の熱気に包まれていました。長崎県からは17名の方が参加されました。また、前日の2月9日には同じく東京都北区北とぴあ飛鳥ホールで全事研評議員会・役員研修会が開催されました。全事研評議員会・役員研修会には、上戸会長 前田副会長が参加しました。

また、長事研では、2月26日長崎市の市民会館で第3回理事会評議員会が開催されました。会では、長事研の本年度活動の総括と来年度に向けて活動の柱や計画について活発に議論が交わされました。その中で全事研熊本大会に向けて活動をしてきた特別委員会に関しての総括が会長から提案され、その内容について理事会評議員会として確認されました。

《全事研セミナー》

開会式では、冒頭鳥本安博新全事研会長からの昨年夏に開催された全事研熊本大会が成功裏に終わったことの報告と九州各県の連携を強く感じたとの感想が述べられました。文部科学省大臣の祝辞(代読)の中では、教育にもとめられるものが大きくなっている今日、「チーム学校」を支える事務職員に期待するところは大きいとの言葉がありました。

セミナーは、次のような内容で開催されました。

・文部科学省行政説明

講師 文科省初中教育局財務課長 矢野和彦 氏
H28年度文科省関係予算政府案について

・講演Ⅰ：「学校のガバナンス改革の現状と課題」

講師 千葉大学 教授 天笠 茂 氏

・講演Ⅱ：「企業の取組から学ぶ学校のガバナンス改革」

～事務職員に求められる役割は～

講師 ベネッセ教育総合研究所

副所長 木村 治生 氏

- ・全事研山形大会報告 大会実行委員長 高橋 忠昭
- ・全事研活動報告 全事研副会長 阿部 貴子

行政説明では、来年度の文教予算案のポイントについての解説がありました。昨年12月に答申された中教審答申に対する文科省の取組などについて説明がありました。

講義Ⅰ及び講義Ⅱは、全事研の第8次研究中期計画の次年度戦略領域である「学校ガバナンス」についての講演でした。また、今後の課題、事務職員の関わり等興味深い内容でした。

全事研活動報告では、事務局、財務部、情報推進部、研究開発部各部の本年度の活動報告がおこなわれました。さらに、今後の全国研究大会について、説明が行われました。また、山形支部からは、山形大会のピーアールをかねて、高橋山形大会実行委員長の挨拶がありました。

全事研セミナーの内容について、全事研会報第224号でも紹介される予定ですので、本号は参加者の感想を中心に御紹介します。

＜参加者感想＞

・全事研セミナーは来年度の全事研の研究テーマに沿った内容で行われるため、これからどういったことに注目していくべきなのか、といったことを考えさせられます。今回のガバナンスのように、テーマだけではイメージがわからないことも、このような学習を受けると、実際の学校での動きに落とし込んでいくにはどのようにしていけばいいのかを考える手がかかりになりました。

・文科省行政説明の中で、「チームとしての学校」と「学校と地域の効果的な連携・協働と推進体制」の関係(イメージ)の組織図で、事務職員が高位にあることから「事務職員に対する期待の表れである。」との説明がありました。モチベーションが上がる気持ちが半分、プレッシャーが半分ですが、今後の事務職員のことを考えれば、これをチャンスと捉えなければならないのかな～という思いでした。まずは自分ができる範囲で・・・

・思えば長事研会員になって10年以上の歳月が経っているようですが全事研セミナーに参加するのは、今回がはじめてで期待を膨らませての参加でした。チーム学校の一員として期待されている反面、私たちに課せられている使命というものもどんどん大きくなっていることを強く感じました。現在の文部大臣をはじめ文科省関係の方は教育関係出身の方が多いことから理解も大変していただいているとの言葉を聞き頼もしいなあと感じました。今回のセミナーの中では、講義Ⅱのベネッセ教育総合研究所 木村 治生氏の「企業の取組から学ぶ学校のガバナンス改革～学校事務職員の目標・機能を考える～」がわかりやすく興味深かったです。このセミナーを糧に日々の事務にさらに邁進したいと思いながら会場をあとにしました。

・今まで参加したいと思っていながら、なかなかスケジュールが合わず、参加できませんでした。今年度初めて参加することができました。会場に入ってまず驚いたことは、広いホールが前から後ろまで、びっしり満員になっていたことでした。会員のやる気が感じられました。

最初の文科省の行政説明は、昨年末に出された中教審答申について、詳しく説明されました。特に「チーム学校」に対して、今後は教職員構造の転換が図られ、部活動指導や保護者・地域の対応は、専門の職員を配置して、教員がより多く授業に集中できるようにしたいという話があり、期待したいと思いました。私たち事務職員も、今後の共同実施の在り方を考え直し、児童・生徒のためにできることを少しでも増やしていかなければならないと考えさせられたのが、今回参加して思いました。

・今回初めて全事件セミナーに参加させていただきました。今回のセミナーでもそうでした。最近の研修会等でも、今の学校では「学校マネジメント」や「カリキュラムマネジメント」といった様々なマネジメント能力が必要とされているように思いました。そこに私たち事務職員が【チーム学校】でマネジメント能力を発揮することが期待されており、現在の仕事だけでなくさらに一歩ずつ進んだ考え方が必要だと強く感じました。

・今回初めて全事研セミナーに参加させていただいて感じたことは、「学校のガバナンス改革」のように全く聞いたことがない言葉が多く、自分の勉強不足を痛感したことです。また、他県の事務職員とは多少業務内容が違っていたり、組織上、勤務形態が違っていたりする等もあると思います。それでも共通認識として世の中がどう動き、何がこれからの学校事務職員に求められてくるのかということ。今回のセミナーにおいて少し見聞できたと思います。中教審答申等により大枠のシステムがどう変わりつつあるのか、全事研はどのような方向性で計画を進めているのか、その大きな流れをつかみに参加させていただきました。大変勉強になりました。有意義な時間をありがとうございました。

・文部科学省矢野課長の行政説明では、学校を取り巻く問題に対し「チーム学校」などの取り組みを進め、教員が授業に専念できる環境を作るため、事務の専門スタッフとして事務職員の力がより必要となるという話があり、千葉大天笠教授と、ベネッセ教育総合研究所木村副所長の講義は、学校のガバナンス改革において、事務職員が、カリキュラムマネジメントの担い手として、また、校長を学校経営面から補佐する学校運営チームの一員として期待されているという内容だった。これらの話を聞き、事務職員の存在意義を高めるチャンスが来ているとの感想を持った。

・1 文部科学省の行政説明、2 全国研究大会山形大会報告、3 全事研活動報告、4 千葉大学教授による講義「学校のガバナンス改革の現状と事務職員に求められる役割」、5 ベネッセ教育総合研究所・副所長による講義「企業の取組から学ぶ学校のガバナンス改革」と中身の濃い研修会だった。印象深かったのは、行政説明で教職員定数に関する財務省の考え方に対して文部科学省が頑張っていることを強調されていたこと、4と5の講義の分かりやすさの違いだった。椅子の間隔が狭くきつかったので、今回の会場はアルカス並に広くして欲しいと思った。

・会場の北区王子の北トピアには平和祈念像(!)があり、長崎人には「パリの自由の女神」みたいな感じでした。行政説明は「チーム学校」を中心に据えた構造改革について。専門スタッフの増員により教員のパフォーマンス向上を

狙う文科省に対し、財務省は教員の人員削減の思惑があるようで、「チーム学校」の各省の考え方のギャップに煮えきれないものを感じました。

《全事研評議員会》

議事：平成 27 年度全事研熊本大会決算報告
平成 27 年度補正予算案について
平成 28 年度暫定予算案について
平成 28 年度全事研山形大会について
その他

熊本大会の決算報告では、2,273 人に参加があり盛会のうちの終了したことが報告されました。また、8 月 3 日から 5 日まで開催される山形大会は、2,000 人の参加者を想定した予算が承認されました。その外全ての議案について、全会一致で承認されました。

議事では、全国大会の在り方について質問がありましたが、大きな進展はありませんでした。

《長事研第 3 回理事会評議員会》

今回は、各理事評議員から活発な意見が出され来年度に向けて大変参考になるものでした。

会長挨拶：予定どおり計画は進めてきたが、会員の減少など問題は山積している。来年度の熊本大会の発表を会員増や長事研活動の活性化につなげていきたい。来年度に向けて多くの御意見をいただきたい。

《協議事項》

- ・27 年度活動報告について
- ・特別委員会の活動について
- ・次年度の活動について
長事研セミナー、総会のあり方について
役員体制について
- ・その他

全事研熊本大会のために研究を行ってきた特別委員会の活動について総括されました。総括の中では、大きな成果とともに今後の課題も示されました。その中で「学校事務のグランドデザイン」については、今後も研究を進めることで、確認されました。詳しい活動総括は次年度の総会でしめされる予定です。

次年度活動の中で、総会とセミナーは、別の日に開催する方向で計画を進めることになりました。



<会報連絡先>

長崎市立三和中学校：南部 省吾

TEL 095-892-1119 FAX 095-892-2474